

2007年度の活動をご報告します

エファジャパン年次報告書 2007

ご挨拶

みなさまと一緒にこの1年を実り多いものことができましたことを感謝し、ここに活動の成果をご報告申し上げます。



2007年度は、ベトナム・ラオス・カンボジアの3カ国の全てで新たな事業を開始しました。これまで行なってきた支援をより広い範囲に拡大すると同時に、子どもに関わる大人への支援も充実しました。より多角的な方法をとることによって、中心となる子どもの生活環境を総合的に向上させながら、支援地の人々が自らとその子ども達が持つ可能性に目覚め、未来へ向けた確かな自信を持つ一助になるのではないかと考えています。

エファの支援地を訪ねるたび、子ども達にとって安心できる居場所がいかに大切か、子ども達をケアする大人（職員）の自然な愛情あふれる態度がどれほど大きな影響力を持つかということを目の当たりにしてきました。厳しい暮らしを強いられていた子ども達は、支援を受け、保護されたり、勉強を始めることができるようになるなど、ただ単に今日を生き抜くためだけではない、当然あるべき生活の余裕が生まれることで、本来持っている生きる力を発揮するようになります。大きく変わっていく子ども達の表情や活力は、そうした内面の変化や成長まではっきりと感じさせます。

実際に子ども達の生活に効果をもたらすエファの活動をさらに充実しながら続けていくことができますよう、引き続きみなさまの応援をお願いいたします。

特定非営利活動法人エファジャパン
理事長 イーデス・ハンソン

— 目 次 —

ご挨拶	2	ラオス	8
2007年度活動ハイライト	3	緊急・人道支援	9
エファジャパンの組織	3	国内事業	10～11
ベトナム	4～5	エファグッズ 開発・販売	12
カンボジア	6～7	会計資料	13～15

2007 年度活動ハイライト

・・・海外事業・・・

- ・ベトナム・ハイフォン市児童福祉職員研修事業開始
ハイフォン市内で、保護を必要とする子どもに関わる職員のための研修事業を開始。
- ・カンボジア・スラム内ノンフォーマル教育（寺子屋教室）支援事業開始
学校に通えないスラムの子ども達のための寺子屋教室運営支援を開始。
- ・ラオス・カムワン、シェンクワン CCC 支援開始
財政難に陥っている地方の子ども文化センターへ支援を拡大。

・・・国内事業・・・

- ・エファジャパン設立3周年記念イベント
映画『それでも生きる子供たちへ』上映と、エファ理事長イーデス・ハンソン×国際子ども権利センター代表甲斐田万智子氏の対談。
- ・ベトナムスタディツアー、カンボジアスタディツアー実施
エファの支援地を訪ね子ども達と交流するツアー。夏にベトナム、春にカンボジアで実施。

エファジャパンの組織

支援者

会 員

正会員…203人
シニア会員…17人
賛助会員個人…53人
賛助会員団体…34団体

総会
(正会員で構成)

- ・エファパートナー
- ・一般寄付者（個人）
- ・一般寄付者（団体）
- ・事業指定寄付者（個人）
(緊急人道支援)
- ・事業指定寄付者（団体）
(ベトナム・ラオス・カンボジア・緊急人道支援)
- ・ボランティア
(事務局ボランティア・イベントボランティア、他)

理事会

理事長	イーデス・ハンソン
副理事長	岡部 謙治
理事	井ノ口 登
理事	大島 芳雄
理事	金田 文夫
理事	玉井 一匡
理事	吉川 健治
監事	新開 忠孝

事務局

事務局長	大島 芳雄
海外事業	高山 淳子
国内事業	五十嵐 香織
広報	宮原 朝香
ラオス駐在	中村 いずみ

2008年3月31日 時点

ベトナム Viet Nam

ベトナム概況

・支援が必要な背景

近年物価の上昇が問題になっていますが、昨年より更に大幅な値上がりが続いています。子ども達の日常に不可欠な米、肉、魚などの値段が30%以上も高騰し、職員の努力や工夫だけでは厳しい状況です。現地関係者と協力して子ども達の健康を支え続けたいと思っています。

・支援の目標、目的

施設への支援に加え、ハイフォン市の児童福祉サービス全般に関わる支援へとベトナム事業が大きく広がりました。子ども達が教育を受けるにあたり、エファジャパンの支援活動を通して様々な改善要素を提供していきたいと考え、現地関係者とともに計画実施しています。

ベトナム子どもの家支援事業

■子どもの家概況

ベトナム北部のハイフォン市レチャン区に自治労の支援により子どもの家が設立されたのは1995年、エファジャパンが設立され自治労から子どもの家の運営支援を引き継いだ翌年の2005年に子どもの家は設立10周年を迎えました。以来、子どもの家の活動はエファジャパンの支援のもとますます充実してきました。現在、子どもの家はハイフォン市児童保護基金の管轄にある公立施設で、エファジャパンとともに様々な支援活動を展開しています。ベトナムは就学率も識字率も非常に高くなっていますが、貧富の格差、都市化の進み中、その歪みには実際に学校へ行けない子ども達が多く存在しています。両親が貧困ゆえに麻薬などの犯罪に手を染め長期刑となったり、都市部に移出ぎにきたものの仕事探しに明け暮れたり、その結果子どもが置き去りになるケースが増えています。子どもの家では、このような様々な困難を抱えた子ども達10人が保護されており、職員達に見守られながら、子どもらしい生活を送っています。

■支援事業

「子どもの生活状況改善支援事業」（支援団体 自治労鳥取県本部）は開始から2年近く経ちました。この事業は子どもの家だけでなく、後述のホンバン愛の家も対象とし、両施設に保護されている子ども達約20人が支援を受けています。本事業は、安定した衣食住環境を維持するために子ども達の食費を中心とした支援、及



ベトナム子どもの家識字教室

び、困難を抱えた子ども達の肉体的・精神的成長のため、情緒や社会性を養う機会を作る文化活動支援、の2つを目的としています。

支援開始後より食費は約2倍に増え、子ども達は目に見えて大きく成長しました。ここ最近、著しい物価の上昇が続く大きな障害となっていますが、職員達の熱心な努力や工夫で乗り越えています。また、遠足や交流などによって、子ども達は貴重な経験を多く持つことができ、自主的な活動が更に活発になってきています。

「子どもの家職員処遇改善支援事業」（支援団体 自治労栃木県本部）も開始から2年近くが経ちました。昨年同様、保育士、識字教室や職業訓練教室の先生など約13名の職員達が子ども達の活動を助けています。この支援により、職員達からは、適切な給与を得ることで子ども達の活動を支えるこの仕事に更にやりがいを感じこれからは懸命に頑張りたい、という声が届くようになりました。どの教室にも毎日多くの子ども達が通い、先生の熱心な指導のもとに楽しく学んでいます。

ホンバン愛の家支援事業

■ホンバン愛の家概況

1999年にハイフォン市ホンバン区に設立されたホンバン愛の家はホンバン区人口家族子ども委員会の管轄のもとに運営されています。以前は海外の支援も多少入っていましたが継続的なものでなかったため、その後は慢性的な財政難を抱えていました。2006年、エファジャパンはホンバン愛の家の状況を確認し、子どもの家と

もに支援事業を開始しました。衣食住の保護を受けている子どもは約10人おり、保護された理由などは子どもの家と同様です。ホンバン愛の家にも学校へ行けない子どものための識字教室はありますが、財政難から先生の離職が多く、保育士が子どもの学習を手伝うことで継続しています。

■支援事業



ハロン湾遠足

前述の通り、「子どもの生活状況改善支援事業」（支援団体 自治労鳥取県本部）が子どもの家とともに開始されました。支援開始後、就

労する児童は一人もいなくなり、子ども達は学校や職業訓練所などで楽しく勉強に集中できるようになりました。日々の食事は栄養・量ともに大きく改善され、活動の場も増え、子ども達の笑顔が増えました。中には、大学進学を希望し優秀な成績をおさめる高校生もおり、将来への希望が芽生える環境になりました。

ハイフォン市児童福祉職員能力向上研修支援

3月にベトナム新規事業として、ハイフォン市児童福祉職員能力向上研修支援事業（支援団体 自治労長野県本部）が開始しました。この事業では、子どもの家、ホンバン愛の家に加え、ハイフォン市の他の児童保護施設や障がい児センターの職員、行政機関、水上生活者の村、両親などを対象にし、様々な専門的な研修を行います。この事業はもともと現地からの要請がとても強かったのですが、研修を受けた教育者が子ども達を教えることでよりよい教育事業をめざしたい、ハイフォン市の子どもに対する福祉サービスを充実させたいというエファジャ



パンの考えと現地への要請が一致したため、約1年間の協議や調査を経て実現しました。当面の支援計画としては、保育士、識字教室や職業訓練

教室の先生、子ども担当の市の職員への研修、両親に対する教育や子どもの権利への理解を深める研修など、それぞれの専門や特性に合った研修を行います。

アジア子どもの家奨学金基金

1999年より自治労栃木県本部が計500万円をハイフォン市に委託し、その利子を運用して奨学金とし、ハイフォン市児童保護基金が中心となって奨学金



事業を行っており、エファジャパンも協力しています。本年も例年通りハイフォン市の様々な児童保護施設に保護されている約70人の子ども達に奨学金が授与されました。また、一部は緊急治療の必要な子どもの医療費として予算があげられており、本年は先天的な心臓疾患の持病を持つ子どもの手術に使われました。

子どもの早期ケアと発達支援

山岳地域のイエンバイ省にて、少数民族を含めた子どもの総合的学習支援事業をSCJ（セブ・ザ・チルドレン・ジャパン）との共同事業として行ってきましたが、本年度の事業評価をした結果、活動が現地に受け入れられ根付いてきていること、住民や子どもの自主的な参加が実現してきていることを確認し、事業の目的をほぼ達成したとして本年をもって終了することにいたしました。これまで、地元政府機関による運営委員会を中心に進めてきま

したが、委員会内での協議が定期的に行われることで、子ども達の発育状況改善や子どもの権利の促進などの活動がしっかりと行われており、今後の継続的な活動が期待できるようになりました。

現在のところ、エファジャパンはハイフォンなどの都市部での支援活動が主なため、この共同事業での農村部の支援活動は貴重な経験となり、今後の事業展開の参考に大いに役立てていきたいと考えています。

ベトナム事業の今後

ハイフォン市の児童福祉サービスの向上に協力していくとともに、職員達の研修を通して、子ども達の受ける教育の質も高めていきたいと思っています。しかし、子ども達の置かれている状況も依然として改善していかなければならない部分が多くありますので、引き続き子どもの生活に直接関わる支援も拡大していきたいと思っています。

カンボジア

Cambodia

カンボジア概況 ・ 支援が必要な背景

ポル・ポト政権の恐怖政治によって社会システムが崩壊したこの国は、海外からの援助と投資により復興していますが、偏った経済成長と都市化に伴い貧富の格差が広がり、スラムも増えています。将来を担う子ども達の健全な育成のため教育の機会を提供する必要があります。

・ 支援の目標、目的

ポル・ポト政権時代の知識階級の虐殺や、その後の内戦による教育分野の遅れから、就学率や識字率が低く、政府も改善に力を注いでいます。子ども達がどんな状況にあっても教育を受けることのできる環境を整備することが、緊急の課題だと考えています。

カンボジア子どもの家奨学金事業

■子どもの家概況

1997年に、自治労の支援によって首都プノンペンにある国立幼稚園教師養成学校の附属幼稚園として設立されました。子どもの家は養成学校の研修の場でもあり、教育者と子どもの双方を育成する施設として、カンボジアの幼児教育に大きく貢献しています。また、特にスラムの貧困家庭にとっては、幼稚園での学習だけでなく朝・昼・おやつの給食や夕方までの保育を含め、教育と栄養と安全を同時に受けることが出来る唯一の場所であり、重要な存在になっています。



スラムの様子

人の幼児が通園しています。

■奨学金事業

自治労和歌山県本部の支援により、子どもの家近隣のスラムから30人の子ども達が奨学金を受けて、子どもの家で学ぶことができました。幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる最も大切な時期です。豊かな感性を養い、就学後の学習意欲や学習態度の基礎となる好奇心や探究心を身につけるために、幼児教育は重要です。また、一定水準の就学前教育を受けることで、子ども自身に学校教育への基礎ができるため小学校での学習から脱落しにくくなることや、教育に対する保護者の意識が高まることなどから、就学率・卒業率向上の効果があることが分かっています。幼児教育を通じて、スラムの子ども達の就学率を向上させ、児童労働の撲滅をめざします。



訓練生が絵本の読み聞かせ

また、地方出身の貧しい訓練生15人にも、生活費として奨学金を支給しました。これまで、プノンペンでの生活費負担に耐えられず途中退学する訓練生が後を絶ちませんでした。奨学金により学習を継続し、卒業後は幼稚園教師として地方に戻り、幼児教育の普及に貢献することを期待しています。

物価の上昇が激しいため、園児、訓練生ともに一旦1人あたりの奨学金を5ドル増額しましたが、食品等の値段がさらに高くなっており、奨学金のさらなる増額が必要になっています。



訓練期間は2年間

スラム内ノンフォーマル教育（寺子屋教室）運営支援

■スラム概況

2005年で700カ所と言われたプノンペン市内のスラム。人々は日々の生活に追われ、子どもに教育を受けさせる余裕もなく、子ども達も働かなければなりません。また、拡大するプノンペンの街は、スラムの人々を更に周辺へと追いやっています。貧困、児童労働、犯罪、強制移住など、様々な問題が存在します。

■SCADP

スラムの問題解決のため、カンボジアの人々も活動しています。そのひとつがカンボジアのNGO、SCADPです。SCADPは、Street Children Assistance and Development Programmesの略で、「ストリートチルドレンの支援と育成事業」という意味です。この団体は、1992年に、創設者のイム・ソカリィ女史がプノンペンでひとりのストリートチルドレンと出会うことで生まれました。出会った翌日、彼女はその子にノートと鉛筆をあげて、読み書きを教え始めました。そのうち、彼女の所に、ひとり、またひとりと、ストリートチルドレンが集まってくるようになったのです。現在では、全国

で1万人以上の子ども達を対象に、主に教育事業を展開しています。

■寺子屋教室

SCADPと連携して、プノンペン市内のスラム3カ所で寺子屋教室を開設しました。6歳から16歳くらいまでの子どもが合計200人登録されています。教室になる部屋を借り、先生を雇い、子ども達には教材、文具、制服を支給しました。授業では読み書き、計算、道徳などを学びます。定期的に学力テストを行い学習進度を把握するほか、欠席が多い子どもには先生が家庭訪問をして、子どもの生活状況を調べます。



公立幼稚園保育研修及び保育教材普及支援事業

エファジャパン、自治労関東甲地区連絡協議会、幼い難民を考える会の3者の共同事業として、カンダール州での公立幼稚園の保育研修と保育教材普及事業を実施しました。この事業は2004年から継続しており、現

在では同州内の多くの幼稚園で保育教材の充実と保育者の創意工夫が見られるようになってきました。8月には自治労関東甲地連派遣メンバーと共に現地を視察し、研修事業の成果を確認しました。

その他の活動

■保険衛生医療スタッフ育成・疾病予防啓発

かねてより自治労神奈川県本部が国際保健協力市民会(SHARE)と行ってきた保健衛生医療スタッフ等の育成・疾病予防啓発活動他支援事業に、2006年度からエファジャパンも共同事業者として参加しました。ヘルスセンターの能力向上支援と、ピアエデュケーション(仲間同士で教育をする自発的啓発手法)の体制強化を行っています。2007年12月にはSHAREが実施した保健衛生事業評価ツアーに参加し、現地での事業実施の様子とそ

の評価を行いました。

■小学校建設事業

自治労鹿児島県本部・熊本県本部・福岡県本部が幼い難民を考える会を通じて行った小学校建設事業にエファジャパンも参加しました。2007年12月には、ドナーである3県本部の代表団と共に現地を視察し、開校式に出席しました。

カンボジア事業の今後

子どもの家奨学金事業は物価高騰のため困難が予想されますが、できる範囲で継続します。また、幼児教育の質を向上させるため、技術支援の可能性を探ります。カンボジア政府も力を入れている「万人のための教育」実現のため、スラムにおけるノンフォーマル教育をカンボジアのNGO“SCADP”と共に推進し、長期的なパートナーシップを検討します。

ラオス Laos

ラオス概況

・支援が必要な背景

本の出版数が極端に少なく、本を手にできる人口が非常に限られています。また、タイ等近隣諸国の文化に押されラオスの伝統文化が衰退の危機にあります。教師不足等から最終学年まで教育できない学校もあり、学校外に子ども達の健全な育成を図る場が求められています。

・支援の目標、目的

地方子ども文化センターの支援を通じて本や紙芝居に触れ、様々な民族の子ども達が互いの文化を学び、それを継承していくことをめざしています。また、演劇や紙芝居などを使った環境や衛生に関する啓発・読書推進運動を通じて、子ども達のより健全な成長を支援します。

ヴィエンチャン市立図書館事業

ヴィエンチャン市立図書館・多目的ホール（石田記念館）では2007年4月に所管部局である情報文化局と合意文書を交わし、月々の運営費、職員の超過勤務代・通勤手当、契約職員の給与などの支援を続けています。その他、ホールで使用するAV機器の購入、正面と駐輪場の門扉・看板の設置や本盗難防止の為に窓格子取り付けなどのサポートもしてきました。ヴィエンチャン図書館は月曜～金曜：9時～18時、土曜：9時～16時に開館しており、仕事や学校帰りの人々も利用できるよう配慮しています。現在でも1日平均300人がこの図書館を利用しており、その80%は大学生以下の子どもが



工作教室

占めています。

また、子どもを対象とした工作教室や読み聞かせなどの活動、ホールを利用した子どもの日イベントなど、様々な活動をおして子ども達

が図書館に親しむ機会を設けています。

地方子ども文化センター支援事業

自治労の支援により首都ヴィエンチャン市に設立されたラオス子どもの家は、総合的な教育・文化活動の提供と読書推進活動、および失われつつある伝統文化を子ども達に継承することを目的に運営されています。子どもの家の成果が政府にも認識され、子どもの家をモデルにした子ども文化センター（CCC）が様々な県に作られており、ラオス17県中、13県にまで広がっています。



2001年から継続してきたルアンパバンCCCの支援（支援団体 自治労佐賀県本部）は2008年で修了します。現地では自己資金獲得の為に工夫を凝らしていますが、財政的自立には至っていないようです。

2007年12月には南部のカムワン県、北部のシェンクワン県のCCCと合意文書を交わし、2008年1月より3年間の予定で支援を行っていくことになりました（支援団体 自治労大分県本部）。雨漏りの修理やトイレ・電気の設置、過疎地への読書推進運動、職員の能力強化研修、子ども達の活動用具などの支援をしていきます。



ラオス事業の今後

ラオス政府との覚書（MOU）を締結し、地方子ども文化センターの支援を継続していくと共に、郡レベル・村レベルのセンターへの支援の必要性を検討していきます。ヴィエンチャン図書館に関しては運営管理能力を強化し、設備の充実を図っていきます。

緊急・人道支援

エファジャパンでは、自然災害や紛争が起きた際緊急人道支援を行います。2007年度は、2006年度のジャワ島中部地震被災者支援の継続と、バングラデシュ・サイクロン被災者救援募金を実施しました。

ジャワ島中部地震被災者支援事業

2006年5月27日、インドネシアのジャワ島ジョグジャカルタ南南西25キロでマグニチュード6.3の地震が発生、約6,000人が犠牲となり、被災者は65万人に上りました。

エファジャパンは、インドネシアのNGO2団体と連携して、伝染病の大規模な発生を防ぐため、被災地に公衆衛生施設（トイレ）を設置しました。

2007年10月に支援結果を視察し、同じ2団体を通じて、12月から復興支援事業を始めました。

復興支援事業の内容と実施団体は以下の通りです。

■ディアン・デサ財団（復興支援金額：2,726,160円）

1) 灌漑用井戸とポンプの設置

地震直後に公衆トイレを建設した集落ケブハンに、乾期の田畑の灌漑用に、2カ所で深井戸を掘り、それぞれにポンプとエンジンを供与しました。乾期の灌漑によって、作付け面積と農作物の収量が増え、被災地住民の家計収入増加が期待されます。

2) オートバイ整備技術の指導

同じ集落で、無職青年の就労を促進するため、オートバイの整備技術研修を実施しました。研修には10名が参加し、オートバイのエンジンだけでなく、自動車のガソリンおよびディーゼルエンジンについても学びました。ディーゼルエンジンの知識は、上記灌漑用エンジンの保守にも役立ちます。

■アマルタ・インスティテュート（復興支援金額：1,861,670円）

1) 公衆衛生教育の実施

地震直後に家庭のトイレの建設を支援したキャンデン村の2集落で、生活用水の水質検査や生活排水の再利用促進を実施し、水源の保全を啓蒙しました。研修には、合計395人が参加しました。

2) コミュニティセンターの建設

上記2集落に、住民参加でコミュニティセンターを建設しました。

■収支

寄付金合計	11,043,234円
支出合計	10,773,481円
内訳	
緊急支援（2006年度）	5,800,000円
ディアン・デサ財団	3,000,000円
アマルタ・インスティテュート	2,800,000円
復興支援（2007年度）	4,587,830円
ディアン・デサ財団	2,726,160円
アマルタ・インスティテュート	1,861,670円
管理費（送金手数料・モニタリング費用等）	385,651円

残額 269,753円

（※残額は、今後の緊急支援に対応するための準備金とすることが2008年4月24日開催の理事会で承認され、同額を計上した予算案が2008年度総会において承認されました。）

バングラデシュ・サイクロン被災者支援事業

2007年11月15日、大型サイクロンがバングラデシュ南西沿岸部を襲い、大きな被害をもたらしました。エファジャパンは、バングラデシュで30年以上国際協力活動を実施している、特定非営利活動法人シャプラニールへの資金援助を決め、募金を呼びかけました。その結果、2008年3月31日までに、合計2,663,630円のご寄付をいただきました。

シャプラニールが実施した被災者救援活動は以下の通りです。

○食料と衣料の配布：米、豆、大豆油などの食料やサリー（女性の衣服となる一枚布）、ルンギ（男性の腰巻布）、毛布を配布しました。

○住居、安全な水、トイレの確保：簡易住居の屋根や壁として使用できるビニールシートを配布しました。生活全般の水資源である池の浄化作業や飲料水確保の井戸掘りを実施しました。伝染病予防のため簡易トイレを設置しました。

○子ども支援センターの設置と運営：被災地の港湾地域でセックスワーカーとして働く女性たちの子どもを対象に、給食と心身のケアを提供するセンターを設置しました。

○受験生への参考書とノートの配布：子どもたちの将来を左右する重要な資格である中等教育修了試験に備えて、参考書とノートを配布しました。

国内事業

イベント・集会等

■設立3周年記念イベント

「それでも生きる子供たちへ」上映会・対談(2/2・横浜)

エファジャパン設立3周年を記念し、困難な状況にあいながらもたくましく生きる世界各地の子どもたちを描いた映画「それでも生きる子供たちへ」の上映会、および理事長イーデス・ハンソンと甲斐田万智子さん（国際子ども権利センター代表理事）の対談イベントを開催しました。10代から70代まで、182名の方にご来場いただき、立ち見が出るほどの盛況となりました。

第二部の対談では、「子どもの権利」をキーワードに、お二人が活動を通して感じてきたことや、子どもの権利条約の意義、子どもたちの未来のために私たちに出来ることなどが語られ、来場者は熱心に耳を傾けていました。

【来場者アンケートより】

- ・「NGOの立場からの、私たちに出来ることのヒントをもらえて助かりました。」
- ・「子どもたちと生きること、子どもたちを守ること、



ケーショング

大人としての役目について改めて考えさせられた。」

【協力企業】

シネマ・ジャック&ベティ
株式会社ギャガ・コミュニ

■その他 2007 年度に参加した主なイベント

- ・NTT 労組児童労働撲滅キャンペーンイベント (9/15・横浜、11/10・東京)
- ・自治労第79回定期大会 (8/28-31・岩手) 他各種集会
- ・グローバルフェスタ JAPAN2007 (10/6-10/7・東京) 他

スタディツアー

現地の様子や支援の成果を実際に肌で感じていただき、エファジャパンの活動や国際協力への理解を深めていただくことを目的に、会員・一般の方を対象としたスタディツアーを実施しています。2007年度はベトナム、カンボジアへのツアーを実施しました。

■ベトナムスタディツアー(2007年8月13日～19日)

ハイフォン市のベトナム子どもの家とホンバン愛の家を訪問し、識字教室や職業訓練教室の見学、子どもたちとの交流を行いました。ツアー後半ではイエンバイ省での子どもの早期ケアと発達支援事業（SCJとの共同事業）を視察しました。（参加者10名）

■カンボジアスタディツアー(2008年3月16日～22日)

プノンペン市の国立幼稚園教員養成学校とその付属幼稚園「カンボジア子どもの家」や、現地NGO「SCADP」が実施するスラム内の寺子屋教室を視察し、学生や子どもたちと交流しました。ツアー後半にはプノンペン歴史観光やアンコール遺跡見学も行いました。（参加者6名）

■参加者の声：「識字教室や授業の様子、職業訓練などを見学させていただき、真剣に取り組んでいる様子を見て、学習することが将来の希望につながるということを感じました。

（中略）決して上からものを見るのではなく、同じ立場として考えを出し合い、実行し、うまくいったら様子を見る、NGOの活動のすばらしさを体験でき、貴重な経験になりました。」（ベトナムツアー参加者/会社員・男性）



「ツアーで一番印象に残っているのがスラムです。自分と同じくらいの歳の人達が先生やボランティアとして働いていることがすごく衝撃的で、これから自分はどういう立場で社会に出て行こうかと考えるきっかけになりました。」（カンボジアツアー参加者/大学生・女性）

広報

■広報誌「えんばわ」

2007年4月発行の第5号から紙面をリニューアルしました。エファジャパン会員他、関係者・関係団体、全国地域国際化協会、全国ボランティアセンター等へ配布しています。発行：季刊、8,000部

【特集記事】

第5号「対談：大石芳野（写真家）×イーデス・ハンソン」
第6号「動き出した図書館 子どもがいっぱい！」（ラオス）
第7号「ベトナムスタディツアー」（ベトナム）
第8号「貧しくたって勉強したい！」（カンボジア）

■ホームページ (<http://www.efa-japan.org/>)

2006年8月にリニューアル後、最新情報やスタッフ日記などエファジャパンの現在をお知らせしています。ホームページの他、国際協 NGO センター主催の Web サイトでの「NGO サポート募金」、Yahoo! インターネット募金、Web サイト「イーココロ！」でのインターネット募金等を開始しました。

■エファ通信（メールマガジン）

原則月1回配信。エファジャパン会員他ご希望の方にエファの活動報告、最新情報をお知らせしています。2007年度は43号～55号の計13回発行。バックナンバーはHPでもご覧になれます。

■エファ CM 完成

2006年度に制作した活動紹介 DVD の映像を使用した2分 CM が完成しました。イベントや集会などの会場で放映する予定です。

■自治労通信での連載・広告掲載

自治労中央本部のご協力により、機関誌「自治労通信」に記事連載と広告を掲載していただいています。記事は、エファが支援している施設・事業に関わる子ども達を紹介する「未来を担う子ども達」シリーズ。広告は裏表紙全面掲載で、時期に合わせ広告内容を変更しています。

ボランティア

■エファボラ（エファボランティアデー）

事務局ボランティアを一般募集し、毎月最終木曜に事務局に集合してボランティア活動を行なっています。ボランティア内容は、広報誌の発送作業やエファグッズの在庫確認など。毎月5人前後の方にご参加いただいています。

■イベントボランティア

4月のメーデー、10月のグローバルフェスタ、NPOまつり、2月のエファジャパン設立3周年記念イベント



においてのべ29人のボランティアのみなさんにお手伝いいただきました。イベントは土日・祝日に行われるため高校生

から社会人まで幅広い年齢の参加があり、イベント運営のボランティアだけでなく、家族・友人をイベントに誘うなど様々な形で応援していただきました。

■フリーマーケットボランティア

10月のNPOまつりと同時開催されたフリーマーケットにボランティア企画で参加しました。4人のコアボランティアのみなさんが、集める不要品の種類、値段、梱包、当日のお楽しみ企画（クイズ）など全て企画、準備し、当日さらに5人の助っ人に参加していただきました。また、絵の得意なボランティアさんに描いていただいた絵はがきを使って、お客さんにエファジャパンの活動も紹介しました。



エファグッズ 開発・販売

◆グッズ販売の趣旨と仕組み◆

エファグッズは、「ベトナム子どもの家」で実施している職業訓練教室の成果品です。現在「ベトナム子どもの家」では、縫製、刺繍、理容の3つが職業訓練として実施されており、子どもの家に保護されている子ども達だけでなく、「ホンバン愛の家」や、近隣に住む子ども達にも開放されています。

縫製・刺繍教室の成果品のうち、出来の良いものをエファジャパンが買い取り、エファグッズとして販売し、収益を子ども達に還元しています。割合は商品によって

異なりますが、例えば400円の巾着の場合、50円が「子どもの家」運営基金への組み入れ、100円が製作に関わった子ども達の収入（刺繍、縫製、アイロンなど役割に応じて配分されます）、100円が材料費、150円が運搬費や事務費になります。子ども達にとっては、放課後大人の目が届くところで過ごしながら自分のペースで教室に参加し、多少の収入を得ることができる機会であり、「子どもの家」にとっては自立的運営に向けた取り組みのひとつでもあります。

【収支】	収入	エファグッズ	1,901,050	支出	仕入れ、輸送経費、雑費等	5,004,548
		自治労布袋	3,362,400			
	収入合計		5,263,450	支出合計		5,004,548
			利益			258,902

◆商品開発について◆



2007年度の新製品であるベトナムシルクを使ったコスメポーチ及びペンケースは、上質な素材とデザイン性に優れた刺繍により、

売れ行きはとても好調でした。その他、記念品としてのオリジナル商品の注文もいくつかお受けすることができ、毎年大量に注文いただく自治労布袋は追加注文もありました。しかし、全体として売れ行きが少なかったことと、現地の物価上昇により材料費や仕入額が値上がってきていることから昨年に比べ利益が減少しました。子ども達の収入源の確保や将来のために、商品開発事業は不可欠ですので、今後は価格改定も課題として検討していきたいと思

います。

本年は、子どもの家の職業訓練で腕を磨いた女性がテーラーショップを開くなど訓練の成果が形として出てきており、長く教室に通っている子ども達の中にはエファジャパンからの注文によって自立できる収入を得られるようになってきています。



◆カタログ・ホームページ◆

エファグッズはホームページ上で全ての商品を紹介しているほか、カタログを制作し会員その他支援者・関係者のみなさまへ配布しています。2007年度版の「エファ

グッズカタログ」はボランティアカメラマンと事務局近隣の家具店の協力をいただき、店内で商品の撮影を行いました。配布部数は約1,000部となりました。

こだわり

ベトナムシルクを使った商品の製作は、生地が綿よりも扱いにくいいため少々技術が必要ですが、子ども達が上達してきているので積極的に開発しました。心配とは裏腹に仕上がりが良く、売れ行きも好調だったため、来年度以降もベトナムシルク素材の商品を増やしていく予定です。ベトナムの素材、ベトナムの美しいデザインにもこだわりながら、今後も皆様に親しんでいただける魅力的な商品の開発に取り組んでいきます。

収支計算書

2007年4月1日から2008年3月31日まで

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異
I 経常収入の部			
1 会費収入	6,180,000	4,512,000	1,668,000
正会員 (個人及び団体)	3,000,000	2,196,000	804,000
シニア会員 (個人)	180,000	96,000	84,000
賛助会員 (個人)	500,000	470,000	30,000
賛助会員 (団体)	2,500,000	1,750,000	750,000
2 収益事業費	8,200,000	5,710,161	2,489,839
エファグッズ	2,700,000	1,901,050	798,950
ベトナム布袋	5,000,000	3,362,400	1,637,600
その他	500,000	446,711	53,289
3 寄付 (エファパートナー)	9,000,000	1,912,000	7,088,000
パートナー (個人)	3,000,000	564,000	2,436,000
パートナー (団体)	6,000,000	1,348,000	4,652,000
4 補助金・助成金収入	31,000,000	31,000,000	0
自治労中央本部	15,000,000	15,000,000	0
自治労共済	15,000,000	15,000,000	0
その他	1,000,000	1,000,000	0
5 寄付金収入	5,000,000	12,673,796	△ 7,673,796
目的指定寄付	4,300,000	10,550,603	△ 6,250,603
その他 (一般寄付・募金)	700,000	2,123,193	△ 1,423,193
6 雑収入	0	410,653	△ 410,653
7 為替差益	0	15,894	△ 15,894
経常収入合計	59,380,000	56,234,504	3,145,496
II 経常支出の部			
1 海外事業費	31,600,000	30,984,708	615,292
①ベトナム事業費	10,000,000	8,003,571	1,996,429
仕入れ	7,000,000	5,004,548	1,995,452
その他	3,000,000	2,999,023	977
②カンボジア事業費	8,500,000	8,623,940	△ 123,940
③ラオス事業費	7,000,000	6,248,404	751,596
④人道支援	4,000,000	7,602,403	△ 3,602,403
⑤発展途上国援助に関する調査研究事業	2,100,000	506,390	1,593,610
2 国内事業費	10,550,000	6,225,470	4,324,530
①国内事業推進費	6,200,000	3,449,357	2,750,643
収益事業費	3,200,000	2,200,385	999,615
その他	3,000,000	1,248,972	1,751,028
②広報事業費	4,350,000	2,776,113	1,573,887
3 管理費	18,843,496	19,630,457	△ 786,961
家賃	3,233,496	3,233,496	0
事務人件費	8,000,000	9,839,577	△ 1,839,577
光熱費	200,000	134,974	65,026
通信費	600,000	376,338	223,662
消耗品費	550,000	628,833	△ 78,833
旅費交通費	1,100,000	668,270	431,730
理事会運営費	200,000	191,350	8,650
法定福利費	2,400,000	2,086,222	313,778
修繕費他	50,000	0	50,000
印刷費	500,000	307,744	192,256
機器リース代	700,000	699,399	601
福利厚生費	100,000	38,910	61,090
支払手数料	150,000	173,491	△ 23,491
租税公課	10,000	7,515	2,485
研修費	20,000	21,300	△ 1,300
新聞図書費	30,000	19,448	10,552
業務委託費	1,000,000	1,182,590	△ 182,590
専門家報酬	0	21,000	△ 21,000
4 為替差損	0	57,822	△ 57,822
5 法人税等	70,000	70,000	0
経常支出合計	61,063,496	56,968,457	4,095,039
経常収支差額	△ 1,683,496	△ 733,953	△ 949,543
III その他資金収入			
その他資金収入合計	0	0	0
IV その他資金支出			
その他資金支出合計	0	0	0
当期収支差額	△ 1,683,496	△ 733,953	△ 949,543
前期繰越収支差額	0	11,240,210	△ 11,240,210
次期繰越収支差額	△ 1,683,496	10,506,257	△ 12,189,753

財産目録

2008年3月31日現在

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	7,808,520		
現金 現金手許有高	487,196		
普通預金	5,792,370		
中央労働金庫市谷支店	3,591,776		
東京三菱銀行市ヶ谷支店	1,509,721		
東京三菱	690,873		
郵便振替口座	1,528,954		
未収会費	1,262,000		
棚卸資産	481,765		
前払金	41,020		
立替金	190,765		
前払費用	284,786		
仮払金	1,248,267		
流動資産合計		11,317,123	
2 固定資産			
その他の固定資産			
保証金	2,600,000		
その他の固定資産合計	2,600,000		
固定資産合計		2,600,000	
資産合計			13,917,123
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	531,783		
前受金	59,000		
預り金	150,083		
源泉税	54,660		
雇用保険	75,023		
住民税	20,400		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		810,866	
負債合計			810,866
正味財産			13,106,257

貸借対照表

2008年3月31日現在

特定非営利活動法人 エファジャパン

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	7,808,520		
未収会費	1,262,000		
棚卸資産	481,765		
前払金	41,020		
立替金	190,765		
未収金	284,786		
前払費用	1,248,267		
流動資産合計		11,317,123	
2 固定資産			
その他の固定資産			
保証金	2,600,000		
その他の固定資産合計	2,600,000		
固定資産合計		2,600,000	
資産合計			13,917,123
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	531,783		
前受金	59,000		
預り金	150,083		
未払法人税等	70,000		
流動負債合計		810,866	
負債合計			810,866
III 正味財産の部			
正味財産			13,106,257
(うち当期正味財産減少額)			(733,953)
負債及び正味財産合計			13,917,123

特定非営利活動法人エファジャパン 2007年度年次報告書

発行 特定非営利活動法人エファジャパン 2008年7月28日

〒102-0081 東京都千代田区四番町4 日本染色会館3階

電話 03-3263-0337 FAX 03-3263-0338 E-mail info@efa-japan.org

ホームページ <http://www.efa-japan.org>



すべての人々に、^{ちから}力を。